

天文学とプラネタリウム



第7回

高梨直統&平松正顕

「定期入れに宇宙」

あきふかし となりはなにを するひとぞ

深夜の天文台は昼間の活気も息を潜め、どこからともなく入り込んだ虫が哀しげな音を響かせます。お、カップラーメンの香りもどこからともなく匂ってきますね、うーん食欲の秋。

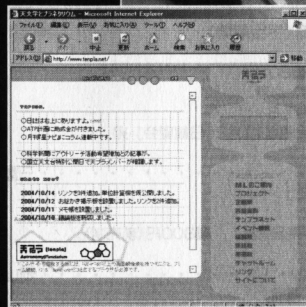
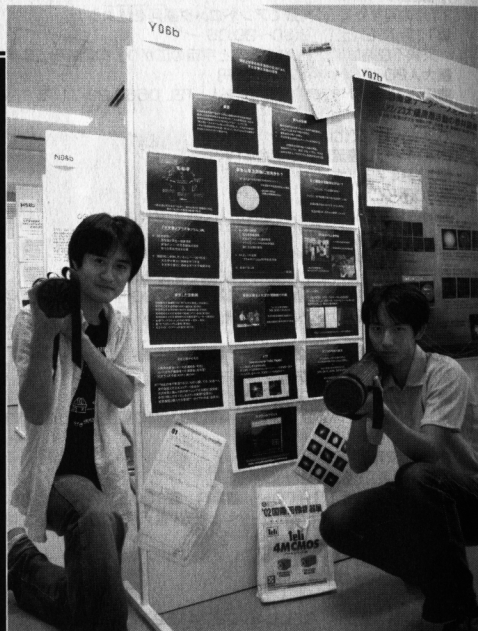
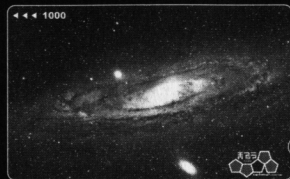
秋の夜中に鎮座する代表的な天体といえば、私たちの銀河系のすぐお隣のアンドロメダ銀河です。残念なことに肉眼ではその華麗な渦巻きを確認することはできませんが、その見事な姿は天体写真などで目にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。2000億の星が集うこの小宇宙の不思議に想いを馳せるのは、なかなか愉快的な時間です。天文ファンにはお馴染みのこの天体を、もっと多くの人に気づいてもらえる機会を創り出せないものでしょうか。

そんなことを考えながら天体写真を眺めていますと、あら不思議、私の目にはだんだんとカードの形に見えてきました。そう、こんな柄のカードがあったら良いと思いませんか？ 各地のバス会社が出しているバスカードや鉄道会社のカード、さらには銀行のカードなど、日常生活の場でよく使われるカード類。このような写真を見たことのない方はもちろん、私たち天文ファンにとっても財布の中や定期入れの中にお気に入りのカードを忍ばせておいたら、不思議と楽しい気分になれるそうです。

最先端の望遠鏡が撮った画像をシリーズ化すれば、かなり集めがいがありそうです。すばる望遠鏡シリーズ、ハッブル宇宙望遠鏡シリーズ、ちょっと未来にはALMAシリーズ。あるいはカタログごとに、例えばメシエカタログなどをシリーズ化しても楽しそうです。あなたら、どんなシリーズが欲しいですか？ ぜひ天プラサイトまでご意見お寄せ下さい。皆さんの力で、実現させませんか？

高梨直統 東大M2/天文学教育研究センター所属
平松正顕 東大M2/国立天文台ALMA推進室所属

天体柄カードのイメージ。同じ銀河の絵でも、超新星が写っていたり、赤外線で見えた絵だったりするレアカードがたまに混じっています。どうせ買わなきゃいけないカードなら、趣味に走った柄だと嬉しいですね。



天文学会ポスター会場にてカメラマンを狙う二人。これでも一応大学院生です。なお、中央に写っているのが「天文学とプラネタリウム」の発表ポスターです。

●「天文学とプラネタリウム」ホームページ
<http://www.tenpla.net/>
天プラサイトが装い新たに生まれ変わりました！